提言

コミュニティ・スクールの取組をとおして

八幡平市立西根中学校
校長　寺澤　幸昌

西根中HP

1　はじめに

本校は平成31年4月に学校運営協議会制度のコミュニティ・スクール（CS）に移行し、今年で4年目です。八幡平市では平成30年に寄木小と安代小が市内で最初にCSに移行しましたが、中学校としては本校が最初の移行でした。当時の刈谷友行校長と菅原真司副校長が岩泉町でCSを経験しており、そのノウハウを生かしてスタートしたとのことです。

令和2年度には市内全小中学校14校がCSに移行し、地域とともにある学校・地域に開かれた学校を目指して教育活動を展開しています。

2　コミュニティ・スクールを維持発展できる理由

私が言うまでもなく、CSに移行することは学校の大改革です。これまであった学校評議員会制度とは違います。私が令和2年に本校に赴任し、第1回学校運営協議会を開催した際、その場に集まっていた委員の方々の当事者として高揚感溢れる雰囲気は、今でも忘れられません。委員は意見を述べるだけでなく、学校とともに責任を取る立場にもあります。教職員とともに生徒の成長を支援する「学校の頼りになる応援団」だと心強く感じました。

また、本校がコミュニティ・スクールを維持し、より良い教育活動を展開できているのは、市教育委員会の絶大な指導・支援によるところも大きいと感じています。その中でも特徴的なことを2つ紹介します。

① 市教委事務局にコミュニティ・スクールアドバイザー（CSA）を配置

② 市CS推進協議会を年3回計画的開催

CSAの藤嶋茂美氏は元寄木小の校長であり、自ら「（他校に先行して移行し、）いっぱい失敗してきたからこそお伝えできることがある」と言いながら、市内各校の学校運営協議会に参加されて助言してくださいます。毎回的確な助言により、協議会の質が高まっています。

また、市CS推進協議会では、他校の取組を知ることができたり、最新の情報を入手することができたりと、管理職のみならず委員の資質・能力の向上が図られています。

3　熟議で解決策を見い出す、課題解決に迫る

本校は年4回（4月、7月、12月、2月）、学校運営協議会を開催しています。会議の中で学校の様子を委員にお知らせする「報告」に終始することなく、学校の課題解決を目指した「熟議」が非常に大事です。「熟議で解決策を見い出す、課題解決に迫る」ためにも、毎回の協議題選びを慎重に行っています。

参考までに、昨年度と今年度の本校協議会で熟議を意識した協議題を紹介します。

◆令和3年度

【第1回】新学校教育目標、経営方針について

【第2回】地区奉仕活動のもち方について

【第3回】西根町史を活用した教育活動について

【第4回】制服の男女共通化について

◆令和4年度

【第1回】学校経営方針について、地域教育の行動目標について

【第2回】国道バイパス歩行横断の危険個所と信号設置に向けた取組について

【第3回】学校評価結果を受けての取組について、皆勤賞と精勤賞の廃止について

4　おわりに

経験不足・力不足な校長職ですが、本校教職員と「学校の頼りになる応援団」、そして熟議をとおして繋がった多くのヒト・モノ・コト……とともに、生徒やその保護者、地域の成長や発展を実現するCSという仕組みを、今後も活かして学校運営をしてまいりたいと思っています。

※　八幡平市のCS推進については、リーフレットをご覧ください。

プロフィール

寺澤　幸昌
（てらさわ　ゆきまさ）

平成2年度、都南村立（現盛岡市立）見前中学校から教員生活がスタート。

平成26年度から教育行政職として、洋野町教委、久慈市教委に勤務。令和2年度から現職。55歳